



LINE登録
(<https://page.line.me/549nckdi?openQrModal=true>)

初回相談
(https://outlook.office365.com/owa/calendar/Bookings6@sodateage.net/bookings/s/dU4tKx01aU6pCqY_y1aM4g)

お知らせ

2021-06-02(<https://atooshi.online/2021/06/02/>)

＜利用者の声＞興味のある動画編集に チャレンジして、働く恐怖心を克服。 (20代)

アトオシ・オンラインがはじめて半年以上。

就職が決まったという嬉しいお知らせをくださった方がいるので、紹介したいと思います。

動画編集講座の受講を目的にアトオシ・オンラインに参加され、先日就職が決まった牧野さん（仮名：以下牧野）にお話を伺いました。

—以前はどんなお仕事をされていたのですか？

牧野：新卒で小売業の企業に就職し、店舗で働いていました。新人研修では仲の良い同期もできて順調だったのですが、配属先の上司がどうしても合わなくて、体調を崩しました。病院にも行ったのですが、ご飯が食べられない状態が続き、仕事に行けなくなって退職しました。2か月くらいだったと思います。その後は、とりあえず元気になるために地元に戻り、趣味の山歩きや釣りをして過ごしました。

—どうしてアトオシ・オンラインを利用してみようと思ったのですか？

牧野：動画編集講座の情報を見たことがきっかけです。退職して1年くらいが経ち、そろそろ働かなきゃと思って、最初はハローワークや地域若者サポートステーションに行こうとしたのですが、具体的な「働く」ことをイメージすると、上司のことを思い出して怖くなってしまいました。まだ働ける状態ではなかったのだと思います。

そんなときに、SNSでアトオシ・オンラインのことを知りました。もともと動画編集には興味があったので、「これならできそうかも」「やってみたい」と思いました。地方に住んでいるので、オンラインで参加できる講座でよかったです。

—どのようにプログラムを利用しましたか？

牧野：すぐにでも動画編集講座に参加したかったのですが、腰痛持ちで、座りっぱなしの講座を最後まで参加できるかなという心配がありました。スタッフの方にも相談すると、無理に講座に参加して集中できなかつたり、途中で辞めることになってしまっはもったいないから、まずは腰痛との上手な付き合い方を見つけてからにしてはどうかと提案されました。たしかに、焦っても仕方ないというのと、あまり元気もなかったのでゆっくり自分のペースを見つけていこうと思い、その回の参加は見送りしました。

それから1か月くらいは、短時間の講座に参加したり、メルカリで古本を売ったりしながら、無理なくできることをしました。腰痛も少しでも体を動かすと良いことがわかったので、意識して外出することを心がけました。そのときできることを少しずつ行ったことは自分に合っていて、心身ともに回復しているなと感じました。

スタッフの方とも「いけそうだ」と合意したので、動画編集講座に参加しました。スムーズに楽しく学ぶことができ、「できる」「得意だ」という自信を持ちました。

この勢いで他のことも学びたいと思って、web制作講座にも参加したのですが、こちらは思ったようにいきませんでした。コードを書いて、実行してみるという作業が苦手で、かなり苦戦しました。でもこの講座に出たことは無駄ではなくて、自分の苦手が理解できたというのと、1か月間、定期的な講座に参加したので、不規則な生活リズムが改善され就活の練習になっていたと思います。それから大きかったのが、イライラのコントロールという課題がつかったことですね。動画編集講座ではなかったのですが、web制作では、どうしてもイライラしてしまって.....

スタッフの方にも相談して、過去のイライラした経験を振り返ってみると、何度かそういった状態に陥ることがあったということに気付き、今のうちに解消方法を探しておくことはこれからも役立つと思いました。これも腰痛改善と同様、山や河川散歩することで落ち着きを取り戻せることがわかりました。苦手な講座を続けるのは大変でしたが、やってみないとわからなかった気付きがあり、参加してよかったなと思います。

—就職活動はどのように行いましたか？

牧野：近所の釣具店からアルバイトを募集しているから働かないかと声をかけてもらいました。正直迷いはあったのですが、接客は苦手だと伝えて、それ以外の仕事をさせてもらえることになったので、「これなら断る理由が見つからないな」とやってみることに決めました。このとき、アトオシ・オンラインを利用する前に感じていた、働く恐怖は小さくなっていったと思います。ただ、過去の嫌な記憶は消えたわけではないので、新しい仕事をしながら思い出として受け止められるようになったらいいなと思います。

—これからもアトオシ・オンラインを利用されますか？

アルバイトを続けられるか不安なのでこれからも定期的に相談をするつもりです。困ったら相談できる人がいるというのは心強いです。あ、それから、早い時間のシフトを選んだので、仕事が終わったら山に行く時間も確保しました。もし嫌なことがあってもその日に解消できそうです。

—牧野さんの担当スタッフより応援メッセージが届いています。「興味のある動画編集だったらやってみたいな」という気持ちを大切にしながら、まずは自分の体と心に向き合うことを始めましたね。定期相談では日々の行動の見直しもしました。一見、就労支援からは遠い話をしていたかもしれませんが、徐々に牧野さんの生活や心が整っていく様子がオンラインでも伝わってきました。その結果、動画編集講座もスムーズに受講でき、「まずはやってみよう！」という次の一歩も踏み出すことができましたね。数百キロという物理的距離がありましたが、こうしてアトオシオンラインを利用してくださり、今でも「働き続ける」に向けて伴走させてもらい、私も勇気をもらっています。これからも一緒に進んでいきましょう。

アトオシ・オンラインでは、「できそうなこと」や「やってみたいこと」を一緒に考え、応援します。まずはあなたのお話を聞かせてください。

はじめての相談予約はこちら

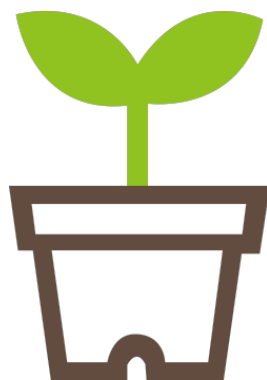
(https://outlook.office365.com/owa/calendar/Bookings6@sodateage.net/bookings/s/dU4tKx01aU6pCqY_y1aM4g2)

アトオシ・オンラインのホームページはこちら (<https://atooshi.online/>)

お問い合わせはこちら

(https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=jQcBbzbtJUu5dl_c8rRTVFSPEJbsmdZFo5NgkW9bW01UQlFRUUpFNTdHMVdKR1I3WTgxUFhSSVWVSS4u)

その他のお知らせ



新しい若者就労支援手法のご提案

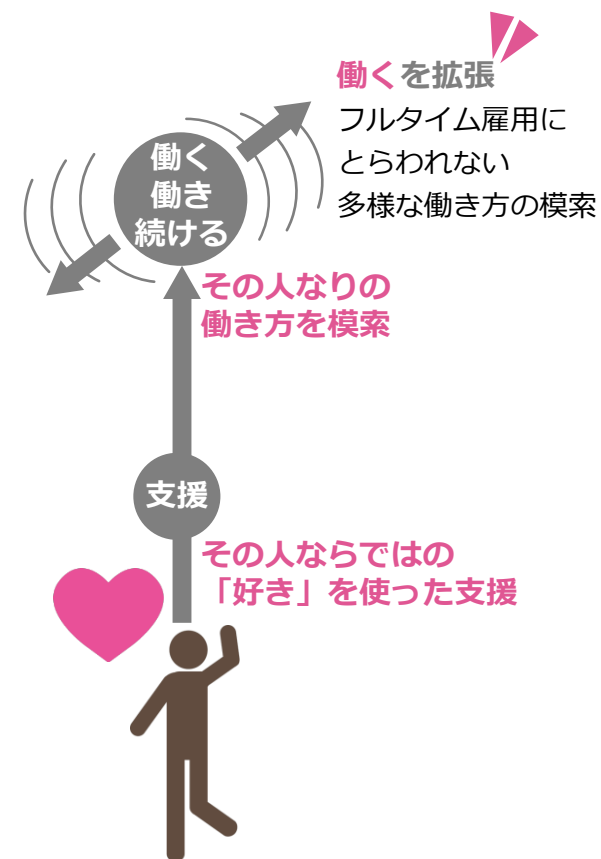
多様な働き方をサポートする

働き方拡張型支援を

導入するためのお願い

働き方拡張型支援とは

多様な働き方を知るなかで、
自分の「好き」を生きしながら
スモールステップで
就労できる能力／自信を育む支援方法



公共セクターや就労支援機関へのお願い

① 就労支援のゴール設定の多様化!

いわゆる「週5日20時間以上勤務」というゴール設定は
働き方改革・コロナ禍のなか、現実的ではない
多様なゴール設定を認めませんか

② 就労支援の1つに働き方拡張型支援を!

就労支援の手法の1つとして
働き方拡張型支援が有効な若者がいることがわかりました

③ 働き方拡張型支援の研修実施!

これまでのキャリア支援の発想だけでは働き方拡張型支援は難しい
支援員が、働き方拡張型支援を行えるよう、
研修・勉強会等を実施しませんか

はじまりは

私たちの素朴な疑問でした

なぜ
就労支援のゴールは
フルタイム雇用なの？

← 私たちが行っている支援は
雇われる会社員になってもらうためのもの？

← 正社員で同じ仕事を続けることだけが
安定した職業的自立なの？

← 雇われる／雇われないにかかわらず
その人らしく「働き続ける」ことはできるよね？

たとえば
サポステでのゴールは……

職業的自立の実現



ゴールとされていること

雇用保険被保険者資格を
取得し得る就職

つまり、1週間の所定労働時間が20時間以上

就職ではなく
就労支援のゴールは就労

その人が自分らしく
働く・働き続けることを
私たちは支援していきたい!!

必ずしも会社に雇われる
フルタイム雇用である必要はない



そもそも

働き方は大きく
変わりつつあります

働き方改革 「副業解禁」の動き



日本を代表する大手企業アサヒビール、ソフトバンク、コニカミノルタ、新生銀行、リクルート、大日本印刷、パーソルキャリアなど多くの企業で副業解禁

正社員で副業している人は10.9%
今後副業したい人は41.0% (2018パーソル研究所)

オンラインでの副業が加速

コロナ禍での 働き方

リモートワークの
急速発展など

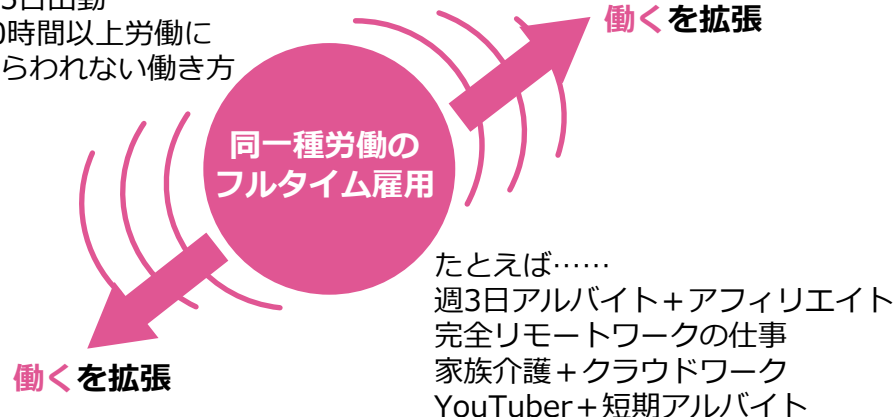


リモートワークが推奨されるようになり、
働く場所を問わない働き方が「フツウ」になりつつある

就労支援の分野も 働くを拡張して考えてみよう

週5日出勤
20時間以上労働に
とられない働き方

働くを拡張



好き・趣味を利用する

オンライン
プラットフォームでの
働き方ってどうなんだろう?

そこで

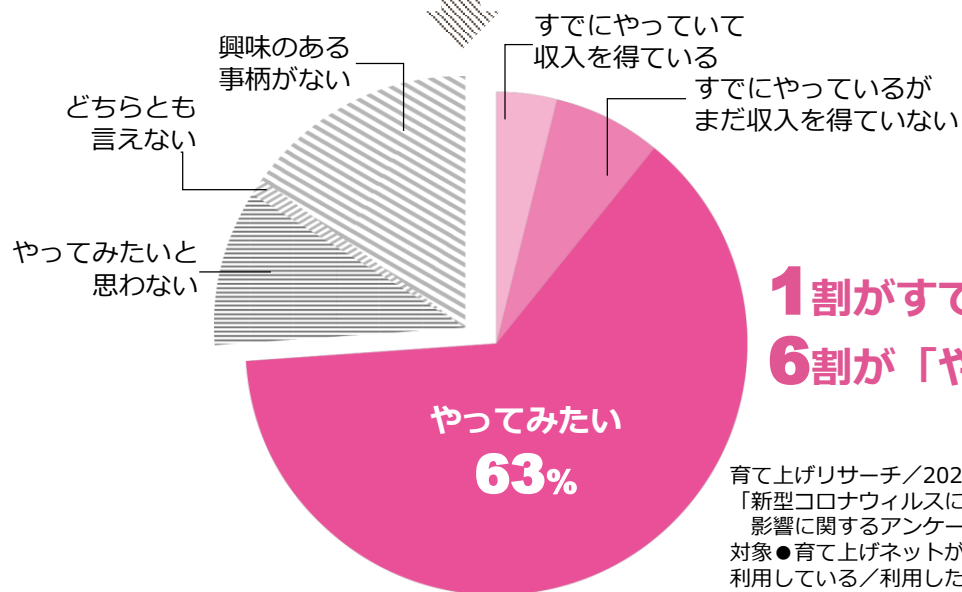
無業の若者自身に聞いてみました

趣味・興味を生かして
収入を得ることに
興味はありますか？



若者たちの多くは
働く拡張に興味あり

多くの無業の若者が「働く」に対して
まだ前向きに考えられないことを考慮すると
(「働く」に限らず何ごとにもネガティブで消極的な若者が多い)
6割が「やりたい」と答えたことは驚きでした。



1割がすでに挑戦
6割が「やりたい」

育て上げリサーチ/2020
「新型コロナウイルスによる
影響に関するアンケート調査」
対象●育て上げネットが運営する就労支援機関を
利用している/利用した若者
回答者数●134名

- やってみたい(やっている)もの
- モノづくり (ハンドメイド作品全般)
- 動画制作・編集
- アプリ制作・プログラミング
- クラウドソーシング (ネットで完結できる仕事の受注)
- 写真撮影
- 投資 (株式など)
- YouTuber・Vtuber (動画配信)
- ネットフリマ (不要品の販売・転売)
- e-sports
- 音楽制作
- イラスト制作
- デリバリー (UberEatsなど)

さっそく

私たちはプログラムを開設しました
それが **働き方拡張型支援** です

働くを拡張
するための支援

趣味・興味を生かした
仕事に関する
プログラムに
参加してみませんか？



若者たちからの
反響が大きい！
支援者からも
「待ってました！」の声

各プログラムはすぐに定員に達しました。
のべ**全国20の支援団体**が参加。

J.P.モルガンの助成事業
Youth Drive for Flexible Digital Workとして
各プログラムを開設・展開)

● **行ったプログラム一覧**

■ **講座型**

クラウドソーシング (クラウドワークス)
ハンドメイド販売 (メルカリ・ミンネ)
メルカリ講座
動画編集 (学習) → 製作
WEBデザイン (学習) → 製作

■ **ゲスト講師講話型**

イラスト講座 (イラストレーターさんによる講話会)
対面による講座
オンラインによる講座 (全国20カ所をつなぐ)
映画監督による動画セミナー

■ **体験型**

ハンドメイドワーク → フリーマーケットに出品
ハンドメイドワーク → メルカリ・ミンネに出品
ハンドメイド作家さんによるワークショップ

■ **動画配信型**

YouTube動画 (メルカリ・イラスト・写真・ハンドメイド
『仕事のリアル』動画編集・モノづくり実践)

■ **イベント** (Peatixにて集客 → イベント実施)

若者支援の新しいカタチ (@大阪: 支援員がオンライン
スモールビジネスを実践してみた事例紹介)

● **支援者向け**

■ **イベント** (Peatixにて集客 → イベント実施)

広がる支援の選択肢 ~ 若者のキャリア形成と働くの拡張
(@東京J.P.モルガン本社)

■ **研修** (法人内支援職向け)

メルカリ社員によるメルカリ講座
ケースマネージャー・担当支援員向け研修 (全4回)

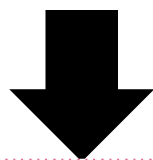


すると

私たちはたくさんの方に気づきました

働き方拡張型支援には

既存の支援プログラムでは
得られない効果があるのではないか？



このプログラムが若者に与える効果

- ① “好き”からはじめられる
- ② “自信”がつきやすい

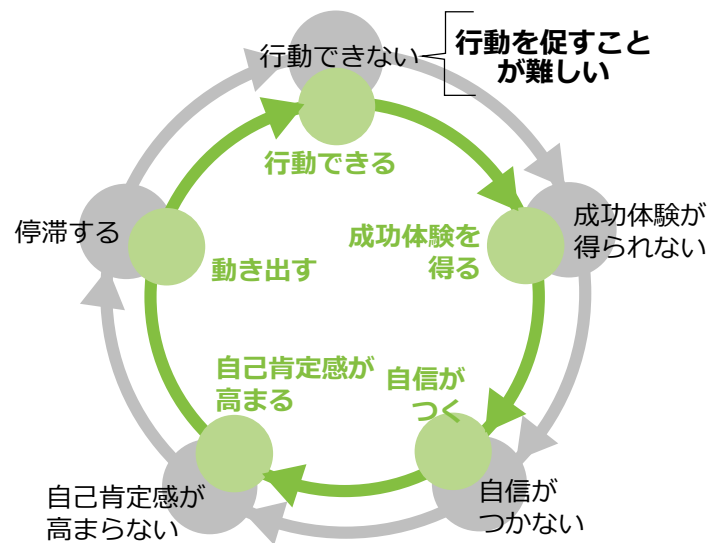
プログラムをやってみてわかったこと

- 就労／支援／相談／訓練といった名目では集まらない無業の若者たち。彼らの興味・関心を直球で突いたことにより、これまでリーチできなかった多くの若者を集めることができました。
- まず行動してみるができない無業の若者たち。彼らの負の悪循環の根本を断ち切ることができました。

単純に
やってみよう
から申し込む

好きなこと
だから
行動できる

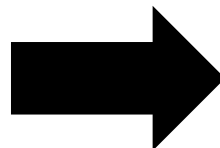
負の悪循環を正の好循環へ



もともと

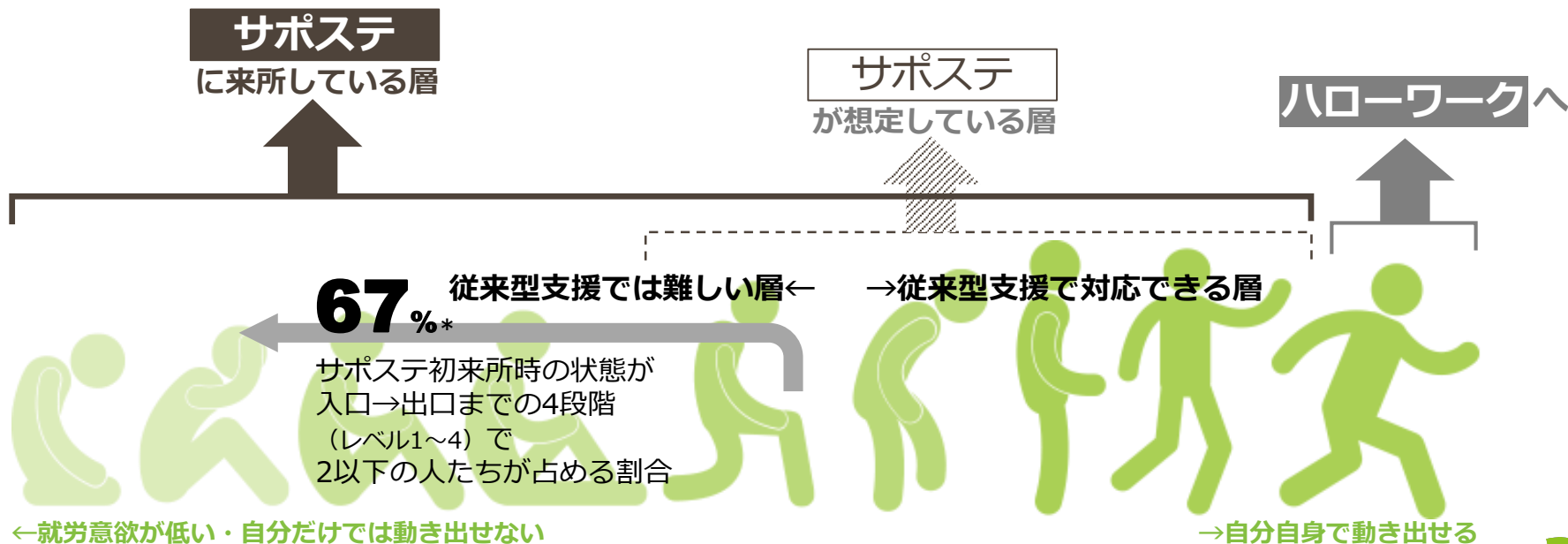
ゴールまで遠い若者が増えていました

既存の支援プログラムでは
支援できない若者が
多いと感じていました



既存のキャリア相談・講座・セミナーの
もっと手前の支援
||
プレ・サポステ的支援が必要だと
支援団体の間では語られてきました

そもそも「働く」イメージを持ってない若者たちは
就労支援機関にはやって来ません。
来たとしても、支援プログラムにはなかなか参加しません。



*厚生労働省人材開発統括官付
若年者・キャリア形成支援担当参事官室調べ（2019年度）



しかし

そんな若者を惹きつけ
就労の方向へと進めることができたのです

従来型支援
キャリア相談
講座・セミナー

- 比較的短期間で出口にたどりつける層に最適

働き方拡張型支援

- 「就労支援」と聞くだけで「できない」と尻込みする層に最適

1 “好き”からはじめられる
2 “自信”がつきやすい

従来型支援では尻込みしていた層でも
関心のあること・興味のあることなら
「行ってみよう！」と思える。
入口の間口を広げることで、
入口自体を目的にしよう → 入口の目的化

サポステが想定する層には
難なく越えられる
ステップ

こんな壁は
自分にはとても
登れない！



しかし、働くイメージの
希薄な若者にとっては
あまりにも壁が高すぎて
行動する前から尻込みしてしまう



興味のある
ことを
学びたい

本人の
「好き」から
スタート



行動の動機付け



「できた実感」が
積み重なる

成功体験



できた！

就労する自信



働かってこれで
いいんだ！
これなら就職活動
できるかも！

キャリア講座や
セミナーにも
参加できそう

就労に向けて
行動ができる
ようになる

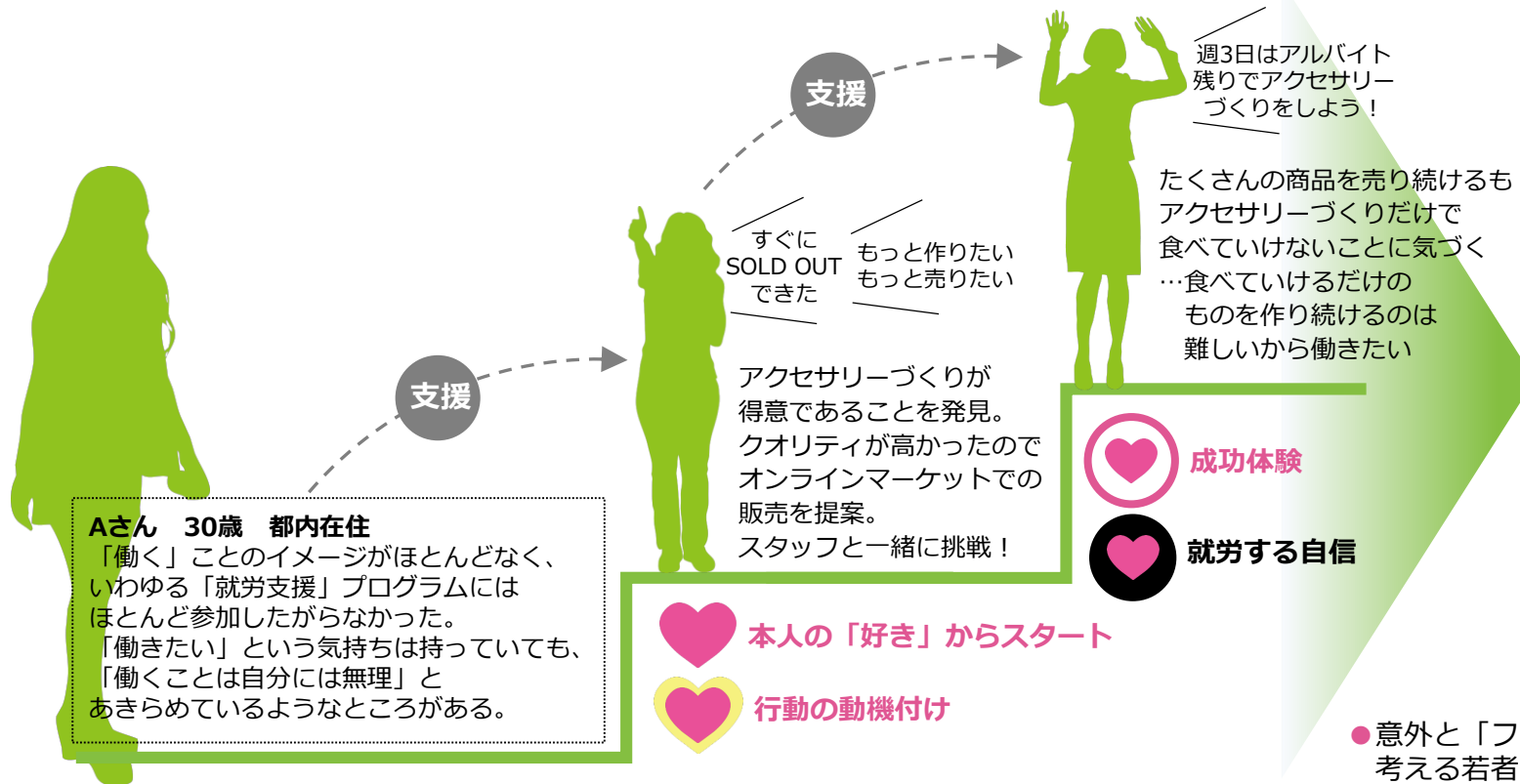
「できた実感」が積み重なり
「仕事をするイメージ」ができ
働くことへの恐怖や不安が
軽減される

行動量・経験UP



たとえば

いきなり就労は難しくても
自分なりの働き方を発見した若者がいます



Aさん 30歳 都内在住
「働く」ことのイメージがほとんどなく、いわゆる「就労支援」プログラムにはほとんど参加しなかった。「働きたい」という気持ちは持っていたも、「働くことは自分には無理」とあきらめているようなところがある。

すぐにSOLD OUTできた
もっと作りたい
もっと売りたい

アクセサリーづくりが得意であることを発見。クオリティが高かったためオンラインマーケットでの販売を提案。スタッフと一緒に挑戦！

週3日はアルバイト
残りアクセサリーづくりをしよう！

たくさんの商品を売り続けるもアクセサリーづくりだけで食べていけないことに気づく…食べていけるだけのものを作り続けるのは難しいから働きたい

- 本人の「好き」からスタート
- 行動の動機付け

●たとえばこんな人もいます

モノづくりワーク参加のBさん

普段は人見知りコミュニケーションが苦手。しかし、ワークに数回通ううちに、周囲の参加者と話をするようになった。自分がわかることを周囲のメンバーに教えたり、新しく参加するメンバーには自分から声をかけたり。最近では「仕事体験に行ってみたい」と言い出すようになった。

通院中でひきこもりがちのCさん

体調の悪いときが多く、通所も途絶えがち。スタッフと相談して、オンラインで動画編集講座にチャレンジ。現在は自身の体調と折り合いをつけながら、クラウドワークスで単発の動画編集を請け負っている。「体調が良くなったら、動画編集の仕事に就きたい」と言っている。

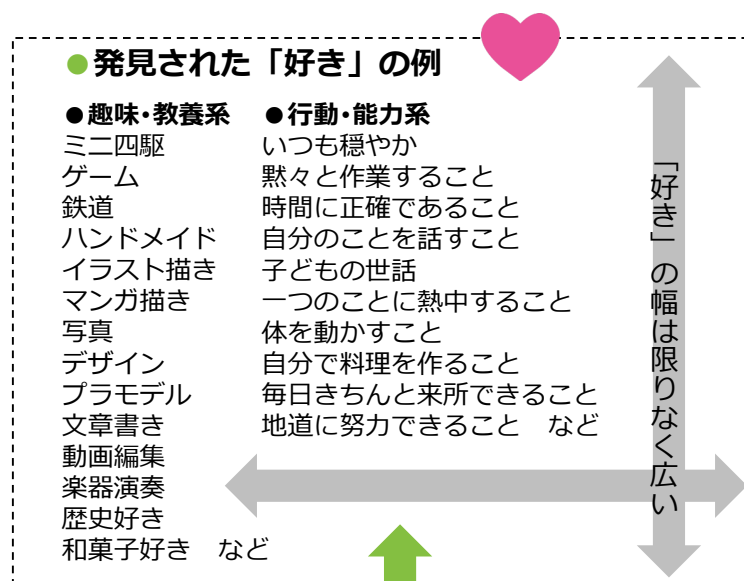


Youth Drive for Digital Flexible Jobs



とはいえ

本人の「好き」を発端にした支援には
支援者のマインド変革が必要でした



既存の
キャリア講座や
セミナーのように
「決まりごとをこなし、
「教えてあげる」姿勢では
うまく支援できない。



求められるのは
**本人の好きを発見し
それを
就労に結びつける
チカラ**

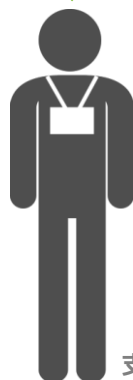
支援スタッフ自身も
**調べるチカラ
教えてもらうチカラ
実践するチカラ**が必要になる

たとえば、「ミニ四駆」のことを
知らなくてもかまわない。
ソレがどういうものを調べ、
若者本人に教えを乞い、
一緒にチャレンジする。そして、
そのチャレンジを就労に結びつけていく。

観察して
「好き」発見

発見して
**誘導・参加
方法を計画**

挑戦して
**就労に
結びつける**



支援スタッフ

支援者は若者の「好き」を見つけ
どうすればそれを伸ばしていけるか、
その先の就労とどう結びつけるか…が
重要になる。



ふたたび

公共セクターの方、支援団体の方へのお願いです。

① 就労支援のゴールの多様化！

就労支援のゴールは必ずしも「(正社員へ)就職する」ではありません。その人が、**自分らしく働く・働き続ける**ことです。「働く」を広くとらえることが、スムーズな支援にもつながります。

② 就労支援の1つに働き方拡張型支援を！

「拡張した働く」をゴールにすると「好き」をきっかけにした支援ができます。「好き」からはじまるので、**行動を促しやすく、行動することから来る自信を積み上げやすい支援**です。

③ 働き方拡張型支援の研修実施！

既存のキャリア講座・セミナーとちがい、「教えてあげる」支援はできません。**若者と一緒に学び、教えを乞い、実践していく姿勢**が必要です。私たちと一緒に、新しい支援手法を考えませんか。

公共セクターの方へ

KPIや仕様に、働き方拡張型支援を取り入れてもらえませんか？

たとえば、サポステなどは「フルタイム雇用をゴール」としてカウントしています。また、公共の若者就労支援の現場では、オンラインスモールビジネスや趣味の講座を仕様として認めているところはほとんどありません。

支援団体の方へ

私たちと一緒に、働き方拡張型支援を導入してみませんか？

私たちは、現在、全国の支援団体と一緒に、働き方拡張型支援のプログラムを作っています。また、支援者のマニュアルも構築中です。私たちと一緒に、働き方拡張型支援のノウハウを蓄積していきませんか。



ある若者の事例 「どうしたらいいかわからなかった」 Dさんのこと



●働き方拡張型支援導入前・導入後

フルタイム雇用と起業の間にある働き方

いわゆるフルタイム雇用にはマッチしない若者がいるとつねづね思っていました。だからといって「起業する」「フリーランスになる」力があるかといえば、そうではないわけで、何か、フルタイム雇用と起業の間になるようなものがないかと考えていました。

そこで、法人内で「パンを作る～売ってみる」をやってみたんです。支援者として視野が広がりましたね。こうした「小商い」とアルバイトを両立させて働く方法もあるのかと思いました。

コロナ禍での模索

ところがコロナ禍がやって来ました。みんな作業所に来ることができません。

そこで、育て上げネットのプログラムを知り、こういうものもあるんだと知見をいただきました。

ハンドメイドが趣味の若者を集めて、育て上げネットのYouTube動画を見ながら、みんなで「作ったものをメルカリで売る」チャレンジをしたりもしました。

こういう働き方もあると思いますし、これからどんどん広がっていく分野。そして、何より若者たちの可能性を広げると思います。

●学びのハードルが下がった若者

自分のことを自分で言えるようになった

ウチに来ている若者一人が、育て上げネットのプログラムである動画編集講座を受講しました。もともと「オンラインで講座を受ける」という発想は持っていませんでしたから、受講生の若者の様子を見るだけで、支援者の私たちも、若者たちも「学ぶ」ことへのハードルが一気に下がったように感じました。

彼は多くを語りませんが、講座受講と動画編集スキルを獲得したことが彼の自信になったようです。

これまで、自分のことを自分で言えなかったような若者でしたが、欠席するときは自分から理由を言うようになりました。「自分は〇〇だから、〇〇します」と言えることは、彼を大きく成長させたと思っています。

●働き方拡張型支援にのぞむこと

こうした支援を就労支援の一つとして認めてほしいですね。

そして、育て上げネットには、いろいろな講座運営をしてほしいです。

自団体には1、2人の希望者しかいなくて講座開催までいたらないものでも、オンラインを使えば、全国的に開催することができます。

もちろん自分たちでも、積極的に作っていきたいと思っています。

沖縄くくるスタッフ 安次富さん



●働き方拡張型支援導入前・導入後

オンラインビジネスへの認識の広がり

スモールビジネスに関する講座を行うことは、一つの支援として使えるなと感じています。

これまでは、育て上げネットのYouTube動画などをすすめても、「見て終わり」でしたが、コロナの影響で、テレワークへの関心・理解が深まり、「ネットを使った仕事に慣れたほうがいい」という認識が広がってきましたから、追い風になっていると感じます。

支援スタッフ自らが体験

体験してみることが大事なので、サポステの支援スタッフもいろいろなチャレンジを行っています。まずはオンライン支援のためにZOOMで仕事をする。そして、ツール使用のメリット・デメリットをスタッフが体感する……。たしかに、「自分でもできる」ということは自信になりますね。

オンライン支援へのハードル

厚生労働省なども、オンライン支援を積極的に進めています。各家庭の環境の問題がハードルになります。PCがない、ネット環境がない……。だからといって、サポステに来てもらっても、PCが古い、ヘッドセットが足りない……。どうにかできないかと思っています。

●「好き」をお金に換えられる！と驚く若者

先延ばしにしていたスキルをオンラインで学習

もともと「動画編集に興味がある」と言っていた若者ですが、こちらから職業訓練をすすめても「アルバイトがあるから」と理由をつけては、先延ばしにしていました。

そんな彼が育て上げネットのプログラム、動画編集講座に参加。苦手なこともあったようですが、得意なことも見つけられたようです。具体的な行動と体験ができたことが、その若者の自己PRになりました。

何より、本人はクラウドワークス・メルカリなどのアプリを使った講座が新鮮だったそうで、「好きでやってることをお金に換えられるなんて！ 新しい働き方を知ることができた」と言っていました。

●ひきこもりながらおこづかい稼ぎする若者

「当分がんばってみます」と連絡してくれた

家から出られず、ネットばかりやっていた若者がいました。

そんな若者がクラウドソーシングでライティングの仕事をはじめました。

家にいながらおこづかい稼ぎができるようになったことで、活力がわいたようで、「当分この仕事をがんばってみます」と連絡をくれました。

●働き方拡張型支援にのぞむこと

育て上げネットには、定期的にいろいろな講座運営をしてほしいです。

きちんとしたプログラムを私たちが作るのは無理があります。自力では、知識・技術が追いつきません。

また、オンライン支援導入のために、環境の整備をどうにかできないかと思っています。

中河内サポステ統括マネージャー
木原さん



支援団体より **かしわ地域若者サポートステーション** 千葉県柏市 ● 認定NPO法人キャリアデザイン研究所 ※

●働き方拡張型支援導入前・導入後

キャリアの話だけでは若者は動けない

かしわサポステは就労に遠い若者も受け入れていて、中には働く意識が低い若者もいるため、キャリアの話だけでは彼らは動けません。

そこで、支援員はキャリア以外の知識や経験をどれくらい提案できるかが大切になります。そのためにもメルカリでの作品販売やモノづくりなどは支援とつながるためのよいツールになっていると感じます。

もともとYouTuberをやっていた

以前から少しYouTuberをやっていたので、私自身が動画配信やモノづくりが身近なものでした。「講座を作るのなら」と思い、メルカリにも挑戦しました。

オンラインスモールビジネスだけで生活するのは難しくても「おこづかい稼ぎならできそう」と考える若者は多く、それが自信・モチベーションアップにつながると思いました。

いざ導入したいと思っても、オンラインの仕事に対する理解が低い（理解しようとしてくれない）支援員もいて、その効果を説明するまでにはなかなかたどりつけませんでした。

ハンドメイドトレーニングの動画

<https://youtu.be/fnkpskI6uHs>

現在、かしわサポステでは、ハンドメイド講座・イラスト講座を開講中（スタッフ2名で担当）

2020年12月現在

●他の利用者との交流で「好き」を表現

「仕方なしに来た」という若者の変化

「来たくないけれど仕方なしに来た」というセッションの若者でしたが、たった1回のハンドメイド講座のなかで大きく変化しました。

材料を選ぶ際も、最初は「無料のものでいいや!」。しかし、他の利用者が違うものを選んで楽しそうにしているのを見て、だんだんと有料の材料を選びたくなったようで、最終的には好きなものをワクワクしながら作っていました。しっかり、自分の「好き」を表現できるようになったのには驚きました。

●人との交流を避け続けていた若者

実は「なんでもできる若者」だった

周囲となかなか馴染もうとしない若者が、ハンドメイド作品を作り、マーケットに出品する講座に参加。

これまでは一切人との交流を避け、話さなかった若者でしたが、講座を通じて他のメンバーと話しています。なんとリーダーシップまで発揮してくれました。販売のときも上手に接客さえしているのです。

その姿は、「普通に何でもできる若者じゃない?」と思えるほどでした。その若者は、自分に能力に気づいていなかったのかもしれない。

この若者は、現在、アルバイト採用され現在も継続中です。

●働き方拡張型支援にのぞむこと

サポステから予算を出せるようにしてほしいです。起業から請け負う内職仕事もやっていますが、若者に対して金銭授受ができるようにしてほしいと思います。国がサポステに仕事を発注することはできないでしょうか。

育て上げネットには、実際にオンラインビジネスで活躍されているイラストレーターさんなどの講話イベントをお願いしたいです。

また、これまでのテーマだけでなく、ハンドメイド、メルカリ販売、マイクラフトなども、オンライン講座を提供してほしいです。

かしわサポステスタッフ 上村さん



J.P.モルガンはJPモルガン・チェース財団を通じて

2014年より認定特定非営利活動法人育て上げネット（以下、「育て上げネット」）と協力し、助成金プログラムを実行してきました。

2019年に開始した「Youth Drive for Digital Flexible Jobs」は第3期目のプログラムとして、今まで培ってきたノウハウを活かし従来の正社員として雇われる就労支援の枠に囚われず、個々の個性を活かした新しい形の就労モデルの構築を目指しました。

ICTの普及によりリモートワーク、フレキシブルワーク、オンライン取引やネットを介した副業など今までの雇用の常識に囚われない働き方が可能になってきました。

オンラインを使い今まで考えられなかった規模での雇用側と労働者のマッチングも可能になりました。一人ひとりの個性を活かした働き方ができる社会が整ってきている中、このチャンスを最大限に活かす為、従来のオフィスワークが合わない若者達に対して機会提供を行い、多様な働き方、就労支援の必要性について積極的に発信をしていく必要があります。

あらゆる立場の若者がやりがいを感じ、安心して、個々の個性を活かした働き方ができる労働市場は日本経済全体の成長に繋がると考えます。

今回このような形で育て上げネットの取り組みに協賛できた事を光栄に思います。

J.P.モルガン
シニア・カントリー・オフィサー
李家輝



本書はJ.P.モルガン助成事業により作成されました

